

第6回 矢作川流域治水協議会の開催

近年の激甚化・頻発化する水害に備え、矢作川流域において、あらゆる関係者が協働して流域全体で水害を軽減させる治水対策「流域治水」の取組みを進めています。

取組開始3年目を迎え、流域の関係者と取組みの進展状況、意見交換などを行い、流域治水の計画的な推進を確認しました。

協議会開催状況（プラザホテル豊田）

【開催概要】

日時：令和5年3月13日（月）

10：00 - 11：30

会場：プラザホテル豊田

【主な議事】

- ・規約の改定
- ・これまでの取組状況等について
- ・新たな取組みの紹介
- ・矢作川水系流域治水プロジェクトの更新
- ・今後の展望について



【議事概要】

- ・矢作川流域治水協議会規約の改定案を協議し施行。
- ・新たな取組みとして多段階の浸水想定図と水害リスクマップの紹介と、矢作川流域治水プロジェクトの更新予定について情報共有。

第6回 矢作川流域治水協議会の開催

【主な発言】

- ・岡崎市：国土交通省のワンコインセンサ実証実験のモデル地区に選定され、市内8地区17箇所に39基の浸水センサを設置している。令和4年9月の台風15号による大雨時には2箇所で浸水を検知し効果を把握できた。このセンサー設置数を増やすことで、通行止めの措置や避難所の開設にも迅速に判断ができると考えている。また、令和3年6月に取りべき避難行動をまとめた矢作川避難計画を策定した。この矢作川避難計画において、24時間前からの早期避難と段階的な避難の開始を条件としているが、このトリガーが課題となっている。豊橋河川事務所には技術的な支援、アドバイス等をお願いしたい。
- ・碧南市：碧南市では南海トラフ巨大地震などの大きな地震や津波対策が喫緊の課題となっている。矢作川水系流域治水プロジェクトに位置づけられている碧南地区防災拠点整備は、市民の安全・安心のために非常に重要な施策であることから、できるだけ早い整備を推進していただきたい。
- ・豊田市：洪水ハザード情報を市民に分かりやすく理解してもらうため、令和4年10月に豊田市水害情報サイトを開設した。このサイトでは、想定される浸水状況をイメージ動画や画像で表現したり、矢作川が破堤した場合の浸水状況の変化を時間経過と共に確認できることから、水害発生時の避難方法を事前に考えるためのツールとしての活用が見込まれる。また、豊田市上下水道施設耐水化計画を策定し、雨水ポンプ場と汚水中継ポンプ場を対象に防水扉の設置や機器の高上げ等を実施していく。
- ・安城市：市民の適切な避難により逃げ遅れゼロを目指すため、町内会が主体となり、市とNPO法人と協働して手づくりハザードマップの作成と大雨行動訓練を実施している。定期的な避難訓練の実施や避難情報の連絡体制の強化などに取り組んでいきたいと防災対策に前向きになる町内会も多く、住民の防災意識の向上の効果を確認している。
- ・西尾市：令和4年度は高潮ハザードマップを作成し、令和5年4月に公表、対象世帯へ配布予定である。各ハザードマップの浸水区域は市内に広く分布しており、市民の事前防災の意識向上を図る必要があるため、出前講座や防災講座、防災カレッジを実施し、地域の自主防災活動に役立ててもらっている。
- ・恵那市：災害に強い森林づくりに向け、えなの森林づくり基本計画を改定、えなの森林づくり実施計画を変更した。令和4年度は、上矢作町、串原、明智町で皆伐・間伐を実施した。また、森林環境譲与税を活用し、令和元年～4年までに串原、明智町で間伐を実施した。
- ・長野県：令和3年度からの5年間で、流域における雨水貯留など、雨水等を「留める」取組みと、まちづくりや住民避難などの事前に「備える」取組みについて、数値目標を定め、計画的・集中的に進めている。
- ・愛知県建設局：みずから守るプログラムと併せて、洪水のような災害が発生した際に、いつ何をするのかを整理したマイ・タイムラインの普及拡大も取り組んでいる。
- ・愛知県農林基盤局：田んぼダムの新規地区や取組みの拡大の検討の際には、農林水産省の補助メニューが用意されており、所管する農林水産事務所の建設課に相談いただきたい。
- ・中部電力㈱：矢作川流域に水害の発生が予想される場合には、治水協定に基づき、中部電力が所有する4箇所の発電用利水ダムにおいて的確に事前放流の対応を実施していく。
- ・林野庁愛知森林管理所：氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策として、管内国有林における森林の整備、治山施設の整備を計画的に進めていく。